凡例

一、本資料集は、菊池武夫関係史料のうち、明治三十一（一八九八）年から明治三十九（一九〇六）年に至る日記二冊を収録したものである。目次にあるように、本集の刊行をもって、菊池武夫関係史料の翻刻は終了することとなる。

一、史料の収録にあたっては、できるかぎり史料の原形をとどめるように留意したが、次の点については改めた。

一、明治三十五（一九〇二）年から明治三十九年に至る日記原文は横書きであるが、編集上縦書きに直した。ただし、算用数字を用いた本文中の表などは、横書きのまま収録した。

一、本文中の年月日表記については、一部手直しをした。

一、漢字は常用漢字を使用し、常用漢字表にない漢字は正字を用い、人名については原文通りとした。

一、仮名づかい・送り仮名は原文通りとした。

一、合字・あて字は原文通りとした。

一、欄外の書き入れなどは、該当部分に（注記）等を付し、その内容を史料の後にまとめて記載した。

一、朱書・抹消・加筆などがある場合は、該当部分を〔　〕でかこみ、その右肩に（朱書）・（抹消）・（加筆）等と記して明示した。

一、史料中に疑義が生じた場合は、該当部分の右肩に（ママ）を付し、明らかな誤りと思われるものには該当部分の右肩に（　）を付して正しい字句を記した。

一、史料欠損などの判読不能部分については、字数の推定できるものは字数の□で示し、字数のわからないものは⌈　⌋で表示した。

一、原史料の頁数については、日記帳は本文欄外上部に付し、金銭出納帳は本文右端に付した。

一、金銭出納帳については、以下の翻刻方法をとった。

①本集末尾からの逆帳とした。

②朱書部分は該当箇所を**ゴシック（太字）体**とした。

③計算結果に疑義のある部分についても原文通りに翻刻した。

④抹消線は ‖ に統一した。